

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

馬 路

第 2 号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月5日（土）10:00～12:00、馬路集会所にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



【地区としての復興の方向性】

- ・気持ちとしては元の場所で暮らしたいけど、また津波が来るかも知れないと思うと、「ここに住みたい」と思えるか疑問

●若い人の意見を聞く

- ・アパートに入るかも知れない

- ・若い人の考えを聞くことが大事

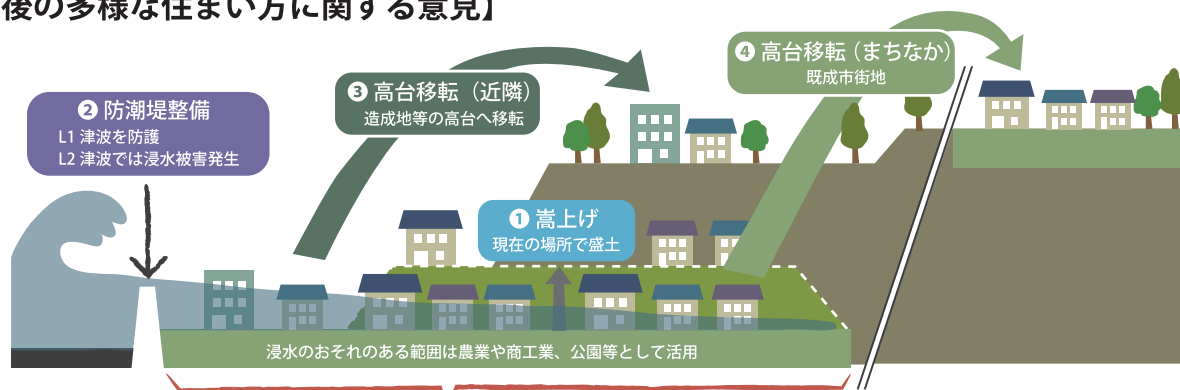


- ・若い人を集めて話を聞く会をせんといかん（日曜日がいい）

●その他心配なこと…

- ・氏神や天満宮をどうするか考えんといかん
- ・弘見で合祀してもらえんろうか

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討
※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

① 嵩上げ

- ・地震だけなら家を直して暮らしたい
- ・津波がきたところには住めん
- ・安心安全を求める気持ちが大きい

② 防潮堤整備

- ・防潮堤を作るなら今！
- ・被災後なら作らなくても良いんじゃない？

③ 高台移転（近隣）

- ・大月町が住宅地を造成してくれたらいいな

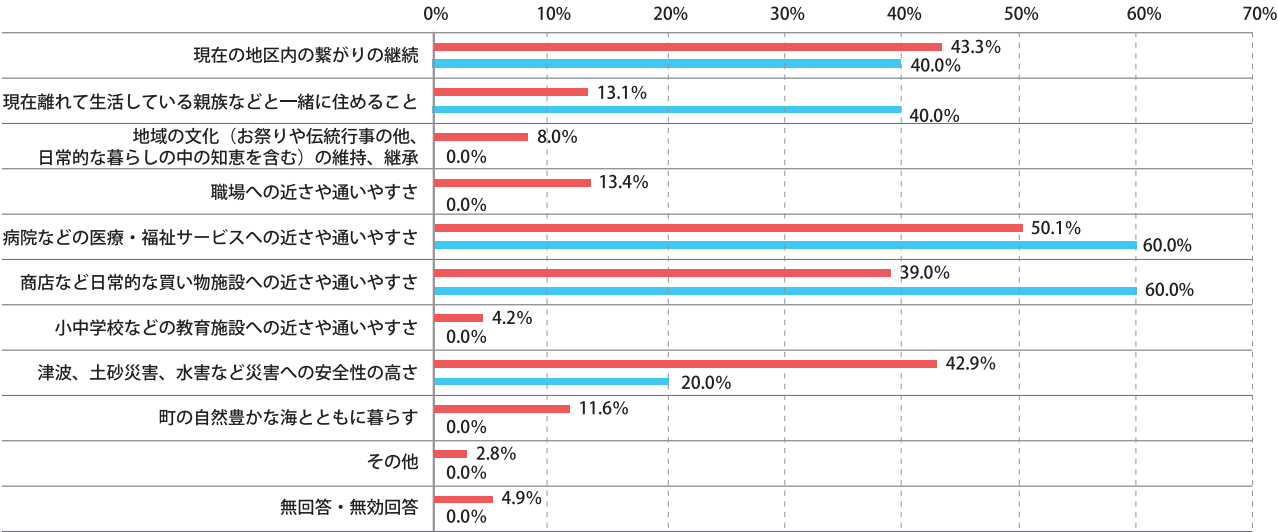
④ 高台移転（まちなか）

- ・弘見、鉾土に公営住宅があったら入るかも！（月灘はちょっと遠い）
- ・車に乗れなくても生活できるまちになると良い
- ・特老に入れるような配慮が欲しい
- ・各々自分たちの財力に合わせて移転したら良いのでは？
- ・特老と病院が大事。また、そこまでの交通手段も必要

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

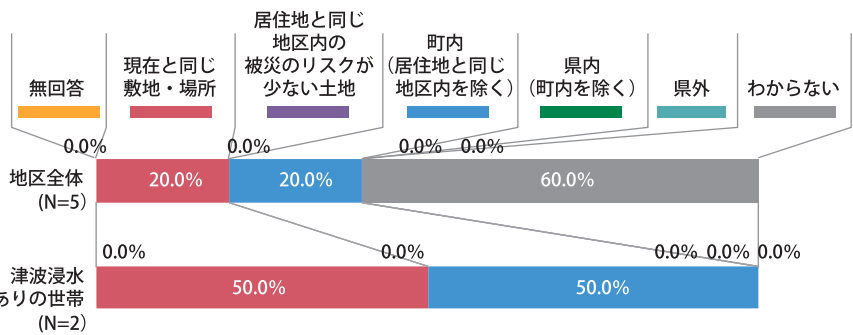
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



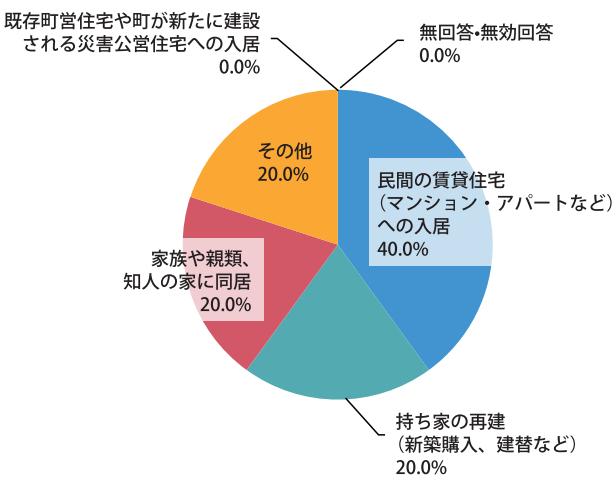
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。馬路地区では、「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」、「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」が 60.0% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」、「現在離れて生活している親族などと一緒に住めること」が 40.0% となった。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所について、馬路地区全体では「わからない」が 60%、「現在と同じ敷地・場所」、「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 20% となり、被災後のイメージを持ちづらいと思われる結果となった。津波浸水の予想される世帯では、「現在と同じ敷地・場所」、「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 50% となった。

●復興の際の住まいの形態 (N=5)



●復興の際の住まいの形態については、「民間の賃貸住宅（マンション・アパートなど）への入居」が 40%、「持ち家の再建（新築購入、建替など）」、「家族や親類、知人の家に同居」、「その他」が 20% となった。